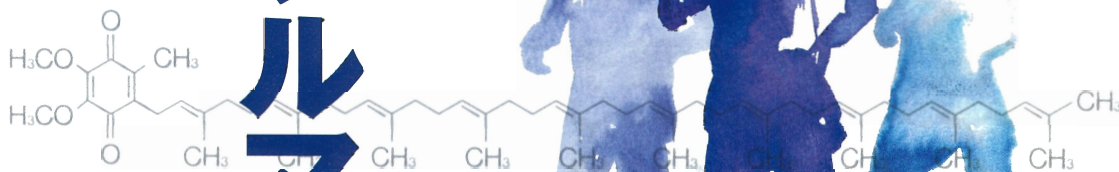




神戸学院大学 薬学部 部長

紀氏 健雄

TAKEDO KISHI



フルマラソンと、 たまご肌。

まったく脈絡のないように思えるフルマラソンとたまご肌。これらを繋ぐキーワードは、神戸学院大学薬学部の学部長を務める紀氏健雄教授の長年に渡る研究対象であり、また最近ではサプリメントなどでもよく見かけるようになった話題の補酵素、「コエンザイムQ10」です。

コエンザイムQ10、通称「コキエンテン（CoQ10）」とは、人の体を形づくる60兆個すべての細胞中に含まれる物質で、人が生きるうえで必要となるエネルギーの約95パーセントを作り出す装置「ミトコンドリア」の中でエネルギーの生産を助けています。

例えば42.195キロのフルマラソンを走る時、体細胞は激しい運動に必要とされる

エネルギーを絶え間なく作り続け、コキエンテンはミトコンドリア内で次々と消費されています。コキエンテンが欠乏しエネルギーの生産が運動に追い付かなくなると、体は疲弊し運動量を維持することが出来なくなります。逆に必要分量のコキエンテンが確保できていれば、細胞は常に効率的なエネルギー生成を行うことが可能となるわけです。事実、2001年、福岡での世界水泳大会で12年ぶりに1500メートル自由形で世界記録を更新して優勝したオーストラリアのグラント・ハケット選手は、コキエンテンを愛用しています。（情報提供：鐘淵化学工業株式会社）

また、細胞でエネルギーを作り出すという作用の他にも、

コキエンテンは細胞のバリア効果を促進する効果もあわせ持っています。人が生きるうえで宿命ともいえる、活性酸素による「酸化ストレス」。人体の加齢の要因のひとつでもあるこの酸化ストレスに対して、コキエンテンは強い抗酸化作用という細胞へのダメージを防ぐ働きで体を守ります。酸化ストレス障害によつて引き起こされるトラブルはさまざま。ガン、心臓病、脳卒中といった日本人の死亡要因トップ3にも酸化ストレスが深く関わっていると考えられています。

コキエンテンは、1958年にアメリカ・テキサス大学のフォーカス博士らによつて本格的に始められました。「CoQ10の父」と呼ばれる、コエンザイムQ10研究の第一人者であるフォーカス博士。神戸学院大学薬学部の紀氏健雄教授はそのフォーカス博士に師事し、およそ20年もの長きにわたりコキエンテンの研究に邁進してきました。紀氏教授の目標は、「コキエンテンの研究によつて、生命力に溢れた日々の暮らしを、そして病に負けない強い体を作ること。つまり「生きる」とそのものの質「Quality of Life」を向上させることに他なりません。紀氏教授のこの目標は、同時に神戸学院大学薬学部の目標でもあります。健康的に、いきいきとした生活を人々に提供するため、紀氏教授の、そして神戸学院大学薬学部の研究は今なお発展を続けています。

て、コキエンテンは強い抗酸化作用という細胞へのダメージを防ぐ働きで体を守ります。酸化ストレス障害によつて引き起こされるトラブルはさまざま。ガン、心臓病、脳卒中といった日本人の死亡要因トップ3にも酸化ストレスが深く関わっていると考えられています。



神戸学院大学

【法学部】法律学科・国際関係法学科 【経済学部】経済学科・国際経済学科 【経営学部】経営学科
 【人文学部】人間文化学科・人間行動学科・人間心理学科 【栄養学部】栄養学科 【薬学部】薬学科・生物薬学科
 【大学院】法学研究科・経済学研究科・人間文化学研究科・栄養学研究科・薬学研究科・食品薬品総合科学研究科
 【法科大学院】

〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518 TEL.078-974-1551(代)
 URL <http://www.kobegakuin.ac.jp>

4つの「新しい」始める。

- 法科大学院
- 薬学研究科 医療薬学専攻
- 経営学部 経営学科
- 人文学部 人間心理学科

2004年4月
同時開設

2005年4月開設予定 申請作業中 総合リハビリテーション学部
 医療リハビリテーション学科・社会リハビリテーション学科